［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

評価確定日　平成19年9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4070501392
法人名	株式会社　光生ビル
事業所名	グループホーム　光生園
所在地 （電話番号）	北九州市小倉南区葛原高松二丁目14－12 （電　話）093－473－0062
評価機関名	社団法人　福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7－1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年8月10日

【情報提供票より】（平成　19年　7月　7日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　15年　3月　17日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	12　人	常勤　6人，非常勤　6人，常勤換算　8.1人

（2）建物概要

建物形態	併設／単独	新築／改築
建物構造	木造	
	1 階建ての　1 階　～　1 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	53,000　円		その他の経費	有
敷　金	有（　100,000　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,650 円			

（4）利用者の概要　（平成　年　月　日現在）

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1	名	要介護2	2	名
要介護3	4	名	要介護4	2	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	87,6　歳	最低	83　歳	最高	97　歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	小野クリニック　・　三好歯科　・　九州労災病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台の広大な敷地に15本もの桜の大木がある運営者の自宅に隣接してホームがあり、しかも、ホームにも10本の梅の大木やみかんなどの果樹園、自家菜園があり、毎日採れたての新鮮な無農薬野菜が食卓に彩りよく上っている。梅や桜の開花時期には、広く地域住民へ見学を呼びかけるなど、地域との交流も盛んに行われている。桜の大木の下には、ベンチやテーブルが設置されていて、1年を通じて利用者、職員が木々の下に集い、北九州空港や海などを眺めながらひと時を過ごしている。ホームのリビングやウットデッキからも山の緑や北九州空港、海などが見渡せる自然環境と理解ある運営者、管理者、職員に恵まれた中で一人ひとりの利用者がお互いに助け合いながら、仲良く活き活きと暮している姿が印象的であり、今後更に発展が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 管理者、職員で話し合って気づきや見直しが必要な点については改善に取り組んでいる。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 職員は評価の意義についてビデオ学習を行い、自己評価の内容を管理者・職員で話し合って意見交換を行っている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議は利用者代表、家族、地域包括支援センター、町内会長などの参加で2ヶ月に1回定期的に開催されている。利用者の生活状況や行事予定などの報告や参加者からの意見を聴くなかで町内会には独居高齢者が多く、今後は宅配弁当や見守りなど地域住民へのサービスについても検討されている。市町村担当者にも利用者に関する課題について相談して意見を求めている。また、市町村担当者から必要な情報提供を受けてともにサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部8，9）** 暮らしぶりや健康状態などは、毎月の金銭管理の報告と一緒に、園だよりで報告している。また、家族の面会時や電話での報告など、その時々の状況に合わせて随時行っている。運営推進会議や家族会、家族の面会時、電話連絡の折など常に家族が意見、不満、苦情を表出しやすいよう管理者や職員は働きかけており、出された意見は管理者と職員で話し合って速やかに運営に反映させている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 町内会に入って地域住民の一員として回覧板を届けたり、近隣住民の訪問を受けている。事業所の夏祭り行事、桜や梅の開花時期には広く地域住民、特に高齢者の方を招待して交流している。

2. 調 査 結 果(詳細)

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人の尊厳を大切に住みなれた地域の中でその人らしく暮し続けることができるように・・・」と事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	訪問者や職員の見やすい位置に理念を掲載してあり、管理者・職員が理念をしっかり共有して日々実践に向けて取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入って地域住民の一員として回覧板を届けたり、近隣住民の訪問を受けている。事業所の夏祭り行事、桜や梅の開花時期には広く地域住民、特に高齢者の方を招待して交流している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義や理解についてビデオ学習を行い、自己評価の内容を管理者、職員で話し合って意見交換を行っている。また、気づきや見直しが必要な点については改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者代表、家族、地域包括支援センター、町内会長などの参加で2ヶ月に1回、定期的に開催されている。利用者の生活状況や行事予定などの報告や参加者からの意見を聴くなかで町内会には独居高齢者が多く、今後は宅配弁当や見守りなど地域住民へのサービスについても検討されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	権利擁護に関する制度の利用方法など、利用者に関する課題について市町村担当者へ相談して意見を求めている。また、市町村担当者から必要な情報提供を受けてともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在1名の利用者が成年後見制度を活用している。地域福祉権利擁護事業や成年後見制度などに関する研修会にも参加しており、研修内容を職員会議の場で説明して、必要な人へ活用できるよう支援している。		
４．理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態などは、毎月の金銭管理の報告と一緒に、園だよりで報告している。また、家族の面会時や電話での報告など、その時々の状況に合わせて随時行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、家族の面会時、電話連絡の折など、常に家族が意見、不満、苦情が表出しやすいよう管理者や職員は働きかけており、出された意見は管理者と職員で話し合って速やかに運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の離職を抑える努力をしているが、やむを得ず離職等で職員が代わる時は、職員が離職することを早めに説明して利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
５．人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては、性別や年齢に関係なくグループホーム職員として適していることを最重要視して決定している。また、職員の希望する趣味活動や料理教室への参加がしやすいように勤務表の配慮をしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	グループホームの倫理綱領や権利擁護など職員の見やすい位置に掲示しており、人権教育等の研修へも積極的に参加している。更に、研修内容を内部研修で報告して、啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内はすべての職員へ回覧して参加を勧めている。また、外部研修は新人職員、中堅と、段階に応じた研修を受けるように働きかけており、施設内研修も不定期に行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入り、管理者や職員を対象にした勉強会へ定期的に参加している。また、同業者と交流して意見交換等を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して入居していただくために、入居前に家族、本人の来訪を勧めて利用者と一緒にレクリエーションなどでひと時を過ごして、馴染みの関係をつくってもらったり、また、職員が入院先を訪ねて、家族や関係者と話合いを行って安心して入居できるように工夫している。体験入居も希望があれば受け入れている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物は夜干すものではないということを教わったり、掃除、調理の仕方や方法など、日常生活行為のなかで折に触れて職員が指導を受けることが時々あり、その事が職員の学びになっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のバックグランドを詳細にアセスメントして本人の希望や好みを汲み取ったり、日々の生活の中で思いや意向を把握している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎月、職員会議で一人ひとりのケアカンファレンスをしたり、家族の訪問時に希望や意見を聴き、介護計画の作成を行っている。尚、今後、「センター方式」を試用して本人のより細やかな情報の収集と分析を行って、介護計画の作成を行う考えである。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ケ月ごとに当日の勤務職員で介護計画の見直しを行っている。他の職員には出勤日に計画の見直しについて意見を聴き、家族にも電話で見直しについての意見や希望を聴いた上で作成し、本人、家族の同意を得ている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	広い多目的ホールには、職員のひ孫さんが遊びに来て利用者と共に過ごしたり、ホームの近所にいる利用者の友人がよく遊びに来ている。ホームには美容院と同じ洗髪台があり、地域の美容師を送迎して訪問理美容をする等の支援を行っている。かかりつけ医の送迎も行っている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医は月に2回、歯科は月に1回の訪問診療があり、気軽に健康相談ができている。緊急時の対応や往診や点滴処置等、協力してもらっている。在宅時の医院をかかりつけ医とされている利用者には家族の協力を得たり、職員が通院介助の支援をしている。ホームの協力医院への変更については本人、家族に判断してもらっている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応について本人、家族、関係者の意見を聴いて決定している。現在、一人終末ケアを行っており、状態が危険な時期もあって、常に医師や看護師、家族と連携をとって行っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々のプライバシーの保護に関しては十分に気をつけており、個人情報の書類等は職員室で管理している。職員の言葉掛けで不適切と感じた時には、職員間で注意し合っており、また、そのような職員関係ができている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝遅く起きる方の朝食等、時間にとらわれることなく一人ひとりのペースを大切にした支援をしている。外出の希望があればできる限り希望に添えるように1対1で同行することもある。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に同じ食事を囲み、会話も弾んで和気あいあいとして家庭的雰囲気である。食事の準備では、利用者が積極的に下準備や盛り付け、配膳をしており、また、後片付けも夢中で我を忘れてしている姿が見られた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、何時でも希望に応じて支援できる体制であり、夜間の入浴希望を聞くが、未だ希望者は無い。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園やプランターの花の水遣り、茶碗洗い、洗濯物たたみ、掃除等、一人ひとりの希望や得意とする事が活き活きとできるような支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の朝、外出を思い立ち、直ぐにおにぎり弁当を作ってドライブに出かけたり、北九州空港までドライブして、そこで食事を楽しんだりと、外出の支援ができている。		
（4）安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は施錠をしておらず、一人で外出する利用者には職員が見守り、同行をしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1～2回夜間想定、昼間想定での防災避難訓練を行っており、地域の消防署の協力を得ている。また、地域住民と一緒になっての避難訓練も行い、ホームの職員も地域が災害時には支援ができる体制作りを前向きに考えている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂食量や水分摂取量を記録し、食欲がない場合はお粥や刻み食にしたり、状態に応じて支援している。栄養状態が悪い場合には、高カロリー食を提供することもある。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした多目的ホールには何人もが共に過ごせる場所や2～3名で過ごせる場所がある。桜や梅の木が窓の近くにあり、秋は紅葉で絵画を見るような景観である。また、関門大橋を望めるウッドデッキがあり、玄関や廊下、台所も広々として、不快な音や光も無く快適である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、装飾品、仏壇等、自由に持ち込まれている。ベットを使用する人、布団を押入れから出し入れしている人など、入居者個々で、自由に居心地の良い居室作りをしている。		